

抗 MRSA 薬投与に対して、薬物血中濃度を測定された症例の割合

1. 臨床的意義

抗 MRSA 薬の一部は、有効性を確保しながら腎障害などの有害事象を回避するため、薬物治療モニタリング（TDM）に基づく投与設計が重要です。本指標は、TDM が必要な抗 MRSA 薬使用例において血中濃度測定が適切に実施されているかを評価し、安全かつ有効な抗菌薬治療の推進状況を把握するものです。

2. 指標の定義とベンチマーク

定義：TDM を行うべき抗 MRSA 薬が投与された症例のうち、薬物血中濃度が少なくとも 1 回測定された症例の割合。対象薬は主としてバンコマイシン、テイコプラニンとし、原則として 4 日以上 of 投与が見込まれる症例を対象とします。

分子：対象症例のうち、薬物血中濃度を測定した症例数

分母：TDM を行うべき抗 MRSA 薬を投与した症例数

収集期間：月次集計（年度単位で評価）

ベンチマーク：日本病院会 QI プロジェクトの平均値を超える 90%以上を目標として、自施設の経年推移を継続評価します。

3. PDCA サイクルに基づく分析と評価

【Plan（計画）】

TDM 対象薬の投与開始時に対象症例を確実に把握し、適切な採血時期と目標濃度に基づいて投与設計を行うことで、治療効果の最大化と薬剤関連有害事象の低減を図ります。

【Do（実行）】

- ・環境整備（ハード面）：電子カルテ、薬剤部門システムを用いて、対象薬の使用状況と血中濃度測定の有無を確認します。
- ・教育、啓発（ソフト面）：AST および感染制御部で実績を共有し、必要に応じて診療科へフィードバックします。

【Check（評価）：当院の実績と経年変化】

2024年											
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
93.0%	88.0%	100.0%	85.7%	97.3%	93.8%	97.1%	95.6%	92.0%	88.6%	97.2%	84.8%

2025年											
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
90.2%	88.5%	95.2%	96.7%	96.7%	100.0%	92.5%	91.2%	97.0%	94.1%	93.8%	96.3%

2026年											
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
94.7%	95.2%	96.7%	96.0%	100.0%							

【Act（改善）：今後の取り組み】

- ・対象薬の投与開始後早期に薬剤師が介入する運用を継続し、未測定例を減少させます。